

## カンボジア官民合同委員会結果概要

日時： 2019 年 12 月 24 日(火) 9:00-12:25

場所： 労働職業訓練省大会議室

参加者数： 25 人

政府 (6): 東 技術職業訓練教育総局(DGTVET) 副局長を含め 4 人  
日 厚生労働省 海外協力室長、日本大使館 1 人

訓練校 (9): NPIC, PPI, NTTI, ITI

企業 (2) JBAC 製造業部会長を含め 2 人

援助機関 (5): JICA 事務所 2 人、JICA-TVET プロジェクト 3 人

事務局 (3): JTB 霞が関事業部 3 人  
(別途、日東通訳 1 人)

### 1. 今年度の成果

- (1) 電気機器組立て職種(シーケンス制御作業)  
3 級技能評価技法講習、トライアル(PPI)
- (2) 機械保全職種(電気系保全作業)  
3 級技能評価技法講習、トライアル(NTTI)
- (3) 電工職種  
技術指導研修、競技トライアル
- (4) 本邦研修 2 週間 4 名  
シーケンス制御に係る技能評価技法講習、技能五輪大会(愛知)の視察

### 2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

- (1) シーケンス制御作業: 3 級トライアル、評価者認定
- (2) 電気系保全作業: 3 級トライアル、評価者認定
- (3) 電子機器組立: 評価者講習
- (4) 本邦研修: 電気系保全作業 3 級、技能五輪大会の視察

### 3. 官民合同委員会での主な意見

- (1) 能力別評価・認定制度の実施について  
200 名の評価者が目標。内 80 名 (SESPP で認定評価者 40 名含む。)を国家的な評価者として認定予定。各訓練校が自校の卒業生を評価するシステムを進める。将来アセスメントセンターとして民間の人たちも評価出来るようにする方針。現在カンボジアにある企業の技術者は主に海外で研修を受けさせているが、将来的な目標としてはカンボジア国内における人材育成。また 5 年後に TVET Law が施行され、各企業また工場における労働者の評価が制度化される。その施行まではアセスメントセンターにて評価を行う。

JICAによる訓練校支援及び SESPP の評価者育成における支援が非常に重要だと認識しているので引き続きお願いしたい。(DGT VET)

→ 電気分野でのアセスメントセンターがまだないので、4 訓練校に是非なってもらいたい。そして、これまでに協力した職種の国家検定化を進めてもらいたい。(厚生労働省)

(2) 国家検定化について

製造業において技術的要件を満たす外国人技術者を使わざるを得ない状況。技術者を採用する際の指標として、国家検定という証明書により日系企業の採用増加も期待出来る。(企業)

JICA プロジェクトは 2020 年 9 月で終了するが、各訓練校が取り組んできた活動が今後国家検定化される事は更に大きな前進、貢献となるものと期待している。また、質の高い人材育成において SESPP 事業の技能検定は有効な手段の 1 つと考えられる。まずは日本でも人気職種であり新入社員が最初にトライする電気系保全の国家検定化を薦める。(JICA)

(3) 企業からの要望

現場で感じるのはエンジニアの機械に対する理解不足で、それは訓練校において技術の習得(技術指導)が不足しているのではないか。新商品や新技術に即対応出来る人が必要とされるため(マニュアルが英語)、海外からの技術者に頼ってしまっているのが現状。海外からの技術者との対応に語学力は必要。是非 TVET の事業、実践に対応出来る人材育成事業を引き続き進めてほしい。(企業)

(4) 今後の取り組み

SESPP 事業の資料、技術面、指導の仕方等はカンボジアに導入すべきものなので引き続き支援(特に技術支援)を望む。まずは各訓練校がアセスメントセンターとして稼働出来るようになることが先決。当校は電気分野のアセスメントセンターとなり、国家検定を実施する。語学力の向上も目指したい。(訓練校)